

校長室だより



令和6年2月 2日

No.29

古今集、水心鏡、浜千鳥、冬至…これみんな梅の種類なんです。梅と言っても実に種類が多く、花の色、形、咲く時期などみんなそれぞれです。よく行く根岸森林公園の梅園がこここのところ週単位で梅の花が開いてきています。ほのかな香りとともに小さな花がぽつぽつ開いてきて、春が近いことを感じます。

先日行われたアメリカメジャーリーグの MVP 授賞式の際、大谷翔平選手が流ちょうな英語でスピーチしたことが話題になっていました。アメリカのメディアや記者が「パーフェクト！」と讃えていたそうです。さすが大谷選手。また人気が上がりそうですね。

一昔前の日本人は、学校で英語は習っていても使えない、英語の学力は高くても、会話すらできないとよく言われていました。英語の文章は読めるし意味もわかるけど、外国人に話しかけられない、外国人が近づいてくると逃げる…当時の日本人は政治家もスポーツ選手も外国の人とお話するときには通訳さんが必要というのが常識でした。これは外国語教育の在り方の問題だとか、日本人の島国気質の関係だとか諸説ありましたが…。

ただ、近年のグローバルな社会、時代ではそうも言っていない。どんどん外国の人と外国の言葉で（あるいは共通に理解できる言葉で）会話したり、接したりすることが普通になってきました。外務大臣も英語が上手だとか。教育分野でも学習内容や取り扱いの段階が変わって来たり、IUI や AET の導入が進んだりしています。でも学習も大切ですが、やはり意識の変化の方も大切だと思います。話してみよう、話したい、つきあってみたい、わかりあいたい…そういう気持ちから会話が始まって来るのかなと思います。

私も以前は外国語で話すなんて無理…とっていました。いざそういう場面になっても頭の中で単語を探し、文法をチェックし…。でも、とにかく伝える気持ちがあれば片言でもなんでも伝わるものだ…最近はそのようになってきました。これは前任校（ろう学校）での経験が大きかったかと思っています。手話ができない私は聴覚障害の子どもたちと話が通じない…。大きな落胆でした。え〜い、とにかく気持ちだけでも…。下手な手話やジェスチャーや表情や筆談や何やかんやで伝えようとする中で、何とか近づいていくことができたように思います。本当に伝わったのはお互いに半分以下だったとしても、それは嬉しいコミュニケーションでした。昨年、アメリカの先生たちがほんごうの見学に来てくれたときも、この方式で“じす いす ほっくん。ほっくん いす あわーすくーるきゃらくたー ゆるきゃらね”などで笑いあうことができました。

ほんごうの子どもたちは特性的に周囲の人とのコミュニケーションが苦手な子が多いですが、自分のことや自分の気持ちを人に伝えたいという思いや、また、相手や周囲の人のことをわかろう、つながろうという気持ちはいろいろな場面で見られます。その力を大切に、学校教育目標にもある「適切なコミュニケーション力を身につけ」るために、一人ひとりの実態や状態に応じて指導支援を重ねていきたいと思っています。



杉田梅林ふれあい公園の梅